

国保の保険証が新しくなります

〒977-0655 健康課国保係 内線611

10月1日からは、

新しい保険証 を使用してください

一人1枚加入者全員に交付されます

有効期限 令和3年9月30日

群馬県健康保険被保険者証

記号番号 9999999 (第20-11区)

氏名 甘楽 華子 性別 女

生年月日 昭和36年9月14日

適用開始年月日 平成18年8月4日

交付年月日 令和2年10月1日

世帯住所 群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡161番地1

世帯主氏名 甘楽 太郎

保険者番号 100784 交付者名 甘楽町

群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡161-1 電話0274-74-3131

色は「茶色」です

見本(表面)

9月中旬に郵送します

お手元に新しい保険証が届きましたら、お持ちの古い保険証は破るなどして処分してください。

保険証は一人1枚のカードタイプで加入者全員に交付されます。サイズも小さいため、紛失に注意してください。

暮らしを支える国保税

国保税は、加入者である皆さんの医療費の支払いにあてる医療保険分と75歳以上の高齢者医療を支える後期高齢者支援金分、介護保険事業にあてる介護保険分からなっています。特別の事情がなく滞納が続くと、保険証を交付できないことがあります。

納税に困ったときは早めに相談してください。

保険証(裏面)には臓器提供意思表示欄があります

ご自身の意思について、ご家族などと話し合ってお知らせをしておきましょう。なお、保険証に同封する個人情報(プライバシー)保護シールをご活用ください。

ジェネリック医薬品を希望する場合は希望シールを貼りましょう



↑シールを貼ることでジェネリック医薬品の処方を希望するという意思表示になります

同封のシールは、保険証やおくり手帳の文字や印影などが無い部分に貼ってください。

善意の紹介

●株式会社アスカ(高崎市)
アスカ教育基金へ500万円を寄付されました。



茂原町長に寄付金を手渡す(株)アスカの加藤秀明会長(右)

●株式会社HSC(高崎市)
微酸性次亜塩素酸水溶液を25ℓ寄付されました。

善意に深く感謝し、
広く皆さんにお知らせします。

天引・城南上野地区(農業集落排水エリア)の宅内排水設備各戸調査を行います

水道課下水道係 内線225

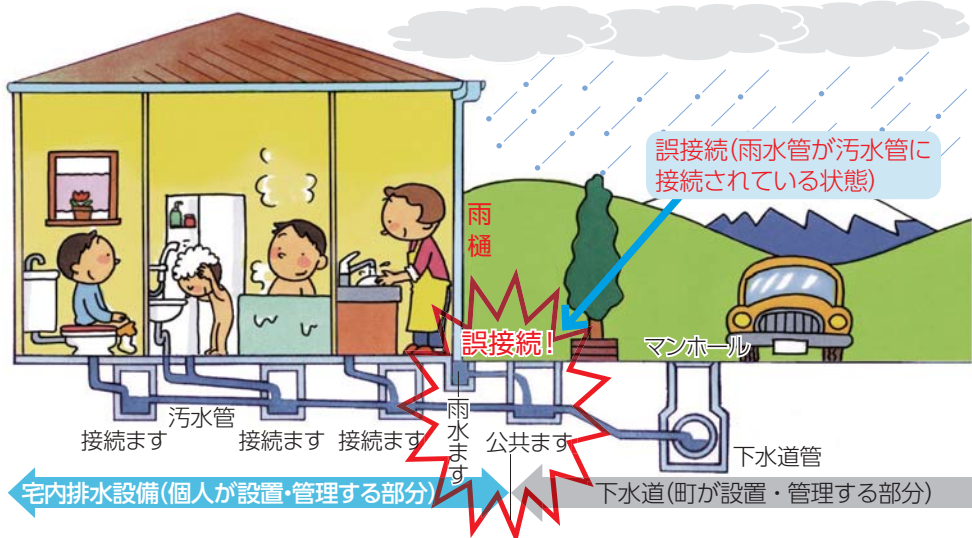
町の下水道は、汚水(し尿および生活雑排水)と雨水を別々に流す「分流式」を採用しています。しかしながら、大雨時に農業集落排水処理場に流れ込む汚水量が増加するため、原因を調査します。

昨年の台風第19号(令和元年東日本台風)上陸時には、農業集落排水処理場に流入する汚水量が激増しました。(左表参照)

増加率が顕著であった天引、城南・上野地区を今年度調査し、来年度以降に善慶寺・国峰地区および公共下水道エリアを調査します。皆さんのご協力をお願いします。

農業集落排水処理場汚水流入量

地区	晴天時 (m ³ /日)	台風19号 上陸時 (m ³ /日)	増加率
善慶寺 国峰	292.3	920.3	3.15倍
天引	137.3	731.0	5.32倍
城南 上野	131.0	790.0	6.03倍



9月から

町職員が訪問します

目的

大雨で汚水量が増加すると、家庭のトイレが使えなくなってしまうなどの被害が発生する可能性があるため、宅内排水設備状況を調査します。

内容

雨水配管の誤接続(上図参照)や汚水ます、ふたの破損状況などを確認します。

注意事項

※改善の必要な箇所が発見された場合には、別途お知らせしますので、早期の修理をお願いします。
※今回の調査で費用を請求することはありませんが、修理が必要な場合の費用は、個人負担になります。

対象地区以外の皆さんへ

今回対象外の地域(善慶寺・国峰地区、公共下水道エリア)の皆さんも、汚水ますのふたの破損等について確認をお願いします。



訪問者

町水道課の職員
(名札と腕章を着用しています)



家族介護者教室を開催しました

健康課介護保険係・地域包括支援センター 内線621・622

正しい知識で

在宅介護の負担を軽減

「失禁と排泄ケア」をテーマにした家族介護者教室が7月17日と31日に、にこにこ甘楽で開かれました。

これは、高齢者を自宅で介護している家族を対象に、介護負担の軽減や快適な生活を送ることを目的として初めて実施したものです。



尿失禁や対処方法について医学的に学びました



講師による安楽なおむつ交換の実演

17日は、公立富岡総合病院の皮膚・排泄ケア認定看護師を講師に招き、失禁の種類や対処法、効果的なスキンケアについての講義に9人の参加者が耳を傾けました。また、31日は大王製紙アテントアドバイザーやホームヘルパーズテーション・シルクから講師を招き、おむつやパットの選び方、上手な当て方などの実技に、11人の参加者が体験を通し学びました。町では、これからも住み慣れた地域で過ごすことができるよう、高齢者本人とその家族を支援します。



尿もれしにくいおむつ装着法を学びました

参加者の声

とてもいい勉強をさせていただきました。今まで自己流でやっていましたが、紙おむつの選び方や取り扱い方など、適切な方法を知ることができて、よかったです。

自宅でフレイル予防！
「運動機器貸与事業」

町では、暑さや自粛生活により外出する機会が減り、足腰が衰え生活動作に支障が出ている高齢者を対象とした運動機器の貸与を始めました。

これは、椅子に腰かけ、機械に足をのせるだけで、電気刺激を通じて足裏やふくらはぎ、前すねの筋力アップを図ることができるものです。

町が実施する「ご長寿調査」や直接の相談により事業の対象者を選定し、地域包括支援センター職員が自宅に伺い、一定期間(3〜6カ月間)貸し出します。詳しくは地域包括支援センターまでご連絡ください。



◆利用者の感想

1カ月毎日使用して足裏が床にしっかりつくようになり、歩きやすくなりました。使い方は簡単、効果が楽しみです。

心に寄り添うボランティア「傾聴ボランティア」

■ 020-252-7655

健康課介護保険係・地域包括支援センター 内線621・622

高齢者の心の声に

耳を傾ける

「おはなしあいてボランティアさくら」は、介護施設や高齢者宅を訪問し傾聴活動を行うボランティアの会で、平成24年4月から活動を始め、現在11人が登録しています。

新型コロナウイルス感染症対策のため訪問活動は休止していますが、会員同士が活動を支えあう「ピアサポート」を目的に、ここにご甘楽で月1回「つどい」を開き、情報交換を行っています。

7月28日のつどいでは、特別養護老人ホームシルク・おばたの三木施設長から、施設における感染予防の現状などについて話をしていたきました。また、新しい生活様式の中での活動について話し合い、「手紙を送る」など形を変えた交流について意見が出されました。

今年8年目を迎えた同会では、一緒に活動する新しい仲間を募集しています。興味のある人は、地域包括支援センターまでご連絡ください。

長い間、お疲れさまでした

多くの人の心の声を聴き、地域の社会福祉の向上に貢献されたボランティアの2人が7月をもって、活動を終了されました。



相川成子さん(左)と富山フミ代さん

「会えるという幸せ」。
傾聴活動の大切さを実感



コロナで活動が休止。何かできることはないか？



傾聴ボランティアのつどい



特別養護老人ホーム
シルク・おばた
施設長 三木秀明さん

傾聴ボランティアの皆さんの活動は、施設の利用者が外部と関われる良い機会であり、「思い」をそばでじっくり聴いてもらえる貴重な時間となっています。コロナで活動できない中、人が生きるうえで社会とつながることの重要性を改めて実感しています。

安心して活動が再開できる日を心待ちにしています。

相川さん

地域のことを知り、いい仲間巡りに巡り合え、楽しく活動できました。傾聴の大事さを実感しています。

富山さん

とてもいい勉強をさせていただきました。今までの経験をもとに、できることをやっていきたいと思います。